教会音楽講習会報告　歌えない時の賛美～コロナ禍の礼拝賛美～

6 月に続き、「歌えない時の賛美」をテーマとした講習会を 11 月 13 日に開催いたしました。

ちょうど新型コロナウイルスの新規感染が減少した時期ではありましたが、前回と同じく Zoom によるオンラインのみの集会として開催し、１７人、１２教会（地区内１１教会、地区外１教会）の参加が与えられました。

講師の浦上充先生は日本基督教団東中野教会の牧師、讃美歌委員会の委員であり、礼拝や賛美歌に関する執筆や講演なども行っていらっしゃいます。東中野教会は初代牧師であった由木 康、2 代目の北村宗次以降、日本におけるプロテスタントの礼拝式文や賛美歌の創作や翻訳に力を入れてきた教会です。

講演は、ペスト流行が終わろうとしていた時代につくられた賛美歌〈「起きよ」と呼ぶ声〉の賛美にはじまり、教会の現状と今後の可能性について語られました。まず、新型コロナの影響がまだ続く可能性、地域や教会による対応の差、以前からある高齢化等の問題が整理されて提示されました。次にコロナ禍の中で捧げられている多様なかたちの礼拝を「対面礼拝」「分散礼拝」「オンライン礼拝（ライブ配信）」「オンライン礼拝（オンデマンド）」の 4 つに分類しそれぞれの特徴が挙げられました。そして対面礼拝を基本としながら、高齢や病気、精神的負担、仕事の都合など、様々な事情で教会に来ることのできない人に対応したり、新たな信徒をそれぞれの教会に合わせ礼拝のかたちを組み合わせて用いていくことが提案されました。

さらに教会音楽の実情についても触れ、感染対策で会衆が讃美歌を歌えない、奏楽奉仕者の高齢化、研鑽の機会の減少などが見受けられるため、復帰に向けてリハビリの必要があると説かれました。礼拝前の賛美練習、礼拝の中で賛美をリードする奉唱者を立てる、奏楽者のためのオンライン講習などです。

最後に今後、技術革新により教会がデジタルネットワークをより快適に利用できる可能性が示されました。短い休憩を挟んで質疑応答が行われ、オンライン礼拝に対応した式文や礼拝論を求める声や、デジタルについていけないため、オンライン礼拝に参加しない人が多い実情を訴える声があがりました。浦上先生は対面礼拝が基本であることを改めて確認したうえで、オンライン礼拝は対面礼拝が困難な場合の補助として有効で、どのように用いていくかは、それぞれの教会で話し合い決めていくものと答えられていました。また、デジタルに対応していない人のために紙面によるつながりも勧められていました。

これからの自分たちの教会の歩みについて、各自が可能性と課題を考えさせられる濃密な学びの時となりました。奏楽者だけでなく、牧師、信徒のリーダーの方たちにも聴いていただけたらよかったと思います。参加者がそれぞれの教会に持ち帰り、報告するときは是非、耳を傾けてください。

報告：吉田みち子(埼玉新生教会員、教会音楽委員会委員長)